

Title 7 グループ分けをするためのアクティビティ

記念日ライン

バースデイラインをひと工夫してグループ分けをしましょう。

- ① 自分の人生の中での記念日を1日考えます。
記念日の例…入学記念日、結婚記念日、車の購入記念日、子どもが歩いた日など
- ② 声を出さずに動作だけで、記念日を相手に伝え、1月1日から12月31日の順番に1列に並びます。
- ③ 1列に並べたら、1月1日に近い方から記念日と何の記念日か発表する。順番を間違えた場合は、正しい順番になる。
- ④ 進行役(司会者)がグループごとに区切るか、何グループか知らせる。
- ⑤ 指定された場所へ移動する。

準備物
特になし

記念日は、誕生日が多いので、できれば誕生日以外を考えるようにすると、多くの意見がでます。

何の記念日か、詳しく聞きたい場合は、進行役が質問しましょう。

4人のグループの場合は、4人ずつ区切る場合とグループ数を伝える方法があります。

数集まり

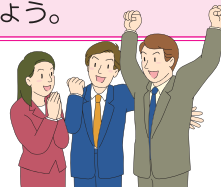
音やクイズ、イメージを考え、楽しくグループ分けをしましょう。

- ① 進行役が指示した数や質問した数を考え、その数で人数を集めてグループをつくる。
 - ① 手拍子の数、太鼓を打った数、笛の数
 - ② 足の数はいくつでしょう？
 - ・ 2本…鳥、ペンギン、ダチョウ
 - ・ 4本…犬、机、いす
 - ・ 8本…たこ
 - ・ 10本…いか
 - ③ 数のイメージで教えてください。
 - ・ 進行役の年代の十の位の数
例…30代と考えた人は3人
40代と考えた人は4人
50代と考えた人は5人
 - ・ オリンピックといえば
例…5輪と考える人は5人
4年と考える人は4人
 - ・ ボランティアとして活動するのに最低何人必要ですか。

準備物
太鼓、笛(使用する場合)

ゆっくり動くように伝えましょう。グループができないところには、進行役が声をかけ、支援をしましょう。

足の数は、イメージでいいので、数の違いのあるグループには、理由を聞いてみましょう。



最終的には、4人から5人のグループとなるので、最後の質問は、進行役は決めておきましょう。

最終的な人数の調整は、進行役が行いましょう。

なにになにと言えば

参加者同士が声をかけ、仲間づくりができるグループ分けをしましょう。

準備物

特になし

- ① 進行役が言う言葉から参加者は、「好きな物」や「イメージする物」を考える。
- ② 進行役の合図で、参加者はイメージした物を出して同じ考えの人を集める。自分の考えた物が少ない場合や変更する場合は、本人が宣言をして変えることができる。
- ③ 人数が集まったと感じたグループは、その場に座って待っている。
例…甘い物と言えば（ケーキ、まんじゅう）
おでんの具と言えば（たまご、大根、ちくわ）
ボランティアと言えば（災害、介護、福祉）

活動のねらいによって、変更を認めない方法で行うこともできます。
例…自分の考えを他人の意見で変えないことをねらいとした場合など。

その後の活動で、同じ考えを持っている人たちを集めることもできるし、違う考えを持っている人たちをグループにすることもできます。

写真を合わせる

参加者が積極的に動いて、グループ分けをしましょう。

準備物

写真を印刷した紙(切ったもの)

- ① 活動に関係する写真を配布してもらう。
- ② 写真から全体を想像する。
- ③ 進行役の合図で、どのような写真か参加者同士で声を出して説明し、一枚の写真にしていく。その集まった人たちがグループとなる。

写真は、グループの人数で1枚の写真を切ります。参加者分が必要なので、少し多めの写真を用意します。

写真を見せるだけでは、仲間が見つからないので、自分から声を出し動くように支援しましょう。

シールを合わせる

相手のことを考えて行動し、グループ分けをしましょう。

準備物

グループ数分の色別シール

- ① 自分のシールの色が分からないように、参加者の襟元や背中にシールを貼ってもらう。
- ② 同じ色のシールをはった人たちがグループとなるように、相手の色を見て、声を出さずに動作で伝え、グループ作りの手伝いをする。
- ③ 同じ色でグループとなる。

参加者を円に並んでもらい、進行役が襟元にシールをはるなど、自分のシールの色が分からないように、はるときに工夫をしましょう。